

佐賀清和高 才川陽妃さん 場面を想像しながら朗読



「第66回NHK杯全国高校放送コンテスト」の朗読部門で優勝した佐賀清和高3年の才川陽妃さんは、石牟礼道子さんのエッセー「から藤を抱く」を朗読した。「朝の発声練習は朗読する上で欠かせない」と才川さんは強調した。コンテストでは課題本の中から1作品を選び、2分間で読み上げる。から藤を抱くは石牟礼さんが東京で「から藤(サツマイモ)」に「再会」する場面が描かれた作品。才川さんは状況を想像し、険しい表情やうれしそうなお顔を浮かべながら読み進め、抑揚や音の強弱でリアルな世界観を表現した。台本は上から何度も色ペンで書き込まれ、台紙が破れセロハンテープで貼られている所が目立ち、懸命な練習を物語った。才川さんは「1日に100回ほど朗読している中で、気になる部分があれば、すぐに書き直さずとて忘れないうちにしよう」と話している。



■CHEM佐賀 CHEMは「クリエイティブ・ハイスクール・エバンジェリスト・ミーティング」の略。県内の教育関係者などで行う実行委員会が主催。高校生がプレゼンテーションや演説を通して、情報共有や互いの活動を活性化させる「化学反応(ケミストリー)」に期待する一方で、小中学生の進路決定のきっかけにもなることを目的とし、2012年から開かれている。

【主催】CHEM佐賀実行委員会 【共催】佐賀大学全学教育機構 【特別協賛】学映システム 【協力】佐賀新聞社、C-REVO in SAGA、佐賀大学クリエイティブラーニングセンター 【参加校・団体】唐津南高校、佐賀工業高校、佐賀清和高校、武雄高校、致遠館高校、さが総文生徒実行委員会、小中一貫校致遠館(ゲスト)＝順不同

中高生、個性豊かに発表



9組がプレゼン

プレゼンテーション大会やコンクールなど、体育系以外の分野で実績のある県内の高校生がそれぞれの活動を紹介し合うイベント「CHEM佐賀」が今月9日、佐賀市の佐賀大学本庄キャンパスで開かれた。高校生8組と中学生の特別ゲストの計9組が、磨いた技能の成果や地域おこしへの取り組み、好きな物の魅力、昨年県内で開かれた全国高校総合文化祭の回顧など、個性豊かな発表を繰り広げた。9回目となった発表会の内容を詳報する。 (志垣直哉、東中千春)

唐津南高 虹ノ松原PT 美観保全へ幅広い活動



唐津南高虹ノ松原プロジェクトチーム(P.T)は、国の特別名勝・虹ノ松原の保全に向けた活動を説明した。「白砂青松」と呼ばれる美観が近年、管理が行き届かず荒れているとし、松原の資源を使う「商品開発」と、売り上げを松原に還元する「循環型プランの構築」に幅広い角度から取り組む。 2019さが総文夏研究部門で3位に輝いた同チーム。松ぼっくりの表面にある微細な穴が香りを吸着すると考

致遠館高 加藤りんさん 食品サンプルの魅力を熱弁



致遠館高2年の加藤りんさんは「高校生ICT活用プレゼンテーション大会」の個人部門で最優秀を受賞した発表を再現し、食品サンプルの魅力について「一番おいしい瞬間を伝える」「一言の壁を越える」「リアルサイズを伝える」とまとめた。 店外に食品サンプルが並ぶ利点について「客側を待ち時間中に注文を遠慮しやすくなる」とも述べた。 効率的」と主張した。

唐津南高 虹ノ松原班 字がうまい担当 虹ノ松原で人を結ぶ



「高校生ICT活用プレゼンテーション大会」のグループ部門最優秀賞に輝いた唐津南高虹ノ松原班 字がうまい担当は「虹ノ松原で人と人を結ぶ」をコンセプトに松ぼっくりで作ったハリネズミの人形などを紹介した。 唐津で今月開催された「かんねまつり」では、虹ノ松原の清掃活動で拾った松ぼっくりを使用したオリジナルハリネズミ製作体験を実施した。ピースや松葉を目を表現し、子どもたちには

佐賀工高 高祖拓実さん 動画で電気工事を説明



「形がかわいい」と好評だったことなどを伝えた。 「虹ノ松原×恋愛スポット」をテーマとして、人と人を結びつけるプランを考案。松は昔、恋占いに使われ、それが万葉集にも記されていたことを知り、松葉で「結び切り」を作成したものの、不格好さなどから採用しなかったとして商品開発の難しさにも言及した。 締めくくりに「虹ノ松原が多くの人にとって幸せな場所になるようにしたい」と希望を語った。

唐津南高 中川和香さん 菓子作りの過程 生き生き紹介



「青々と茂る若葉、爽やかな空気が松の香りに包まれ…」と冒頭から、すがすがしい声と情景描写で聴衆を引きつけた唐津南高食品流通科2年の中川和香さん。昨年10月にあった県高校総合文化祭の弁論部門で最優秀賞に輝いた発表を再現し、虹ノ松原の保全を目指して取り組んだ菓子製造について生き生きと紹介した。 中川さんは昨年の全国高校総合文化祭に合わせ、日頃学んでいる食品製造

武雄高 佐賀の温泉伝えたいっ隊 「温泉のある高校生活」追究



佐賀の魅力を生かした企画を高校生が提案する「佐賀いこう! 企画甲子園」(昨年12月)で、最優秀企画賞に輝いた武雄高の「佐賀の温泉伝えたいっ隊」。佐賀の温泉に着目した同大会の発表をベースとしてさらに磨き上げ、実現に向けて追究した内容を披露した。 日常的に温泉を楽しむ高校生活を広めようと「温泉×高校生×日常」のキーワードで切り口を探った。休憩所を学習スペースにすれば生徒が通うので

さが総文生徒実行委員会 「総文」回顧し成長ぶり紹介



「今年になってはこの基礎練習がとても大事なことが分かって大好きになった。 発表では、ソフトシューズを履き、得意な回転を中心にしたしなやかなバレエを披露した。ターゲットのときは目が回りかのように、またきれいに見せるために、一点を見つめて回るコツを実技で説明した。 バークスさんは「本選では練習の成果を発揮し、観客の心に残るような演技をしてトップ10に入れるように頑張りたい」と意気込みを語った。

さが総文生徒実行委員会 「総文」回顧し成長ぶり紹介



昨年7月27日から8月1日にかけて県内で開かれた「第43回全国高校総合文化祭(2019さが総文)」。生徒実行委員会メンバーは、準備も含めた取り組みの感想や自身の成長ぶりについて語った。 準備に費やした2年間を「意見のぶつかり合いもあったが、より良いものにしようという意志があったからこそ。これほど互いの信頼が強まった」と団結に至る過程として紹介。県内を取

Advertisement for Gakuei System featuring children and text: 'こどもの夢をお手伝いします Doctor, Scientist, System engineer'. Includes contact information for Gakuei System and ANAR.



各組の発表が終わった後は第2部として、発表者同士で意見を交わす恒例のパネルディスカッション「CHEM MUNICATION(コミュニケーション)」を開いた。クリエイティブティ(独創性・創造性)が発揮される場面について意見が言い合い、互いに質問したりもして、次なる一歩に向けて刺激を受けた。 ます「クリエイティブティが発揮される場面」と題して同会者から質問。さが総文生徒実行委員会は「毎回の実行委がクリエイティブティにあふれていた」として「話し合いの場で発揮された」とまとめた。バークス・アシュリー・幹さんも準備段階の実践を含めて言及し、「役の本を読んだり映画を観たりして、役になりきる時」と説明した。 一方、佐賀清和高の才川陽妃さんは朗読表現ならではの感覚として「普段の練習はクリエイティブティをつくる時で、発揮できたのは聴く人につながった」と語った。 続いて互いに質問し合うパートでは、素朴な疑問から取り組みの具体的な手法までさまざまな内容が話題になった。 唐津南高虹ノ松原プロジェクトチーム(P.T)は、同じくアンケートで



意見交換で互いに刺激